



ワトソニア

87 編の端書きは **コラの子の詩。賛歌。歌** とあり、再びコラの子の賛歌になります。その主題は **神の都** です。

まず最初に神の都は **聖なる山に基を置き(1)** と、礎が置かれた場所は、聖なる山であるといひます。聖なる小高い場所と特別に限定されればエルサレム神殿でしょう。

ソロモンはエルサレムのモリヤ山で、主の神殿の建築を始めた。そこは、主が父ダビデに御自身を現され、ダビデがあらかじめ準備しておいた所で、かつてエブス人オルナンの麦打ち場があった。(歴代下 3:1) アブラハムが一人息子イサクを燔祭として捧げた場所はモリヤの山と言われ、そこにソロモンが神殿を建築しました。聖なる山を全体として考えれば、シオン、エルサレムを指します。

新約聖書では **聖なる山** は、**荘厳な栄光の中から、「これは私の愛する子。私の心に適う者」という声を聞いたのです。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。(二ペト1:17)** と、ペトロの手紙にのみ記されています。この出来事が起きたのは「変貌の山」と言われるタボル山と推測されていますが、ヨルダン川で主イエスが洗礼を受けた時に聞こえたのもこの声ですから、特定の場所を示すのではなく、「主イエスと共にいて、神の声を聞く場所」を指すのではないかと思います。

次に、**主がヤコブのすべての住まいにまさって愛される／シオンの城門よ。(2)** と、城門を大切な場所とします。城門は、人々を出迎え、見送り、また、守る、小さい場所ですが、イスラエルの他のどこの住まいよりも、神は城門を最も愛されていると言ひます。大勢のレビ人が門衛に任命されています。

神の都よ／あなたの栄光について人々は語る。〔セラ (3) と、聖なる山である神の都シオンが栄光に満ちていると人々は褒めたたえる、と述べます。栄光の形とは何でしょうか。それは信じられないほど驚くべきことです。ラハブ(エジプトの意;参照イザヤ 30:7)とバビロン ペリシテ、ティルス、クシュ(4) と、異邦の地、敵対する地の名を挙げて、その地も この都で生まれた、と書こう と神が言われたと、記しているのです。同胞であっても父の名や出身地を記するのが常でしたが、シオンについて、人々は言うであろう／この人もかの人もこの都で生まれた、と(5) 神は定めたと記します。即ち、すべての人々、すべての国々は「聖なる山」で生まれ、ここが故郷であると言ひます。民族主義的、排他的とみなされるユダヤ人ですが、この詩編は全く違ひます。すべての人は賛美しつつ告白します。

歌う者も踊る者も共に言う／「わたしの源はすべてあなたの中にある」と。(7)

『讚美歌 21』には 87 編の関連讚美歌はありませんが、私は 225「すべてのものらよ」を賛美したいと思ひます。 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2013-03-31>

ジュネーブ詩編歌は、ビオラ・ダ・ガンバと、オルガン、リコーダーの合奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=BgJlCqyqyN8&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=87>